

●オプティ EX シート敷設要領

【I】はじめに

日本国内の沖縄から北海道まで24種のシロアリが生息しています。これらのうち、木材・木造建築物に経済的な被害を与えるのは、**ヤマトシロアリ・イエシロアリ・ダイコクシロアリ及びアメリカカンザイシロアリ**の4種類です。

樹木は春から夏にかけて成長が活発な時期に形成される早材部（春層）と晩材部（秋層）によって成長し年輪部を形成します。シロアリはやわらかい早材部を好んで食害していくので**年輪に沿って食痕が見られるのが特徴です**。

シロアリは木材中のセルロースを栄養に出来るため、自身の栄養にならないものでもかじる習性があることから、プラスチック製の配管類や電線ケーブル、断熱材や薄い鉄板でも食害して室内に侵入して行くことが知られています。

光と風を嫌うシロアリは地中や基礎内面に蟻道というトンネルを作り、建物の土台や柱、大引き、根太など継手仕口部の接合箇所から建物へと侵入して行き大きな被害を与えています。

「**シロアリの被害から大切な家屋を守る**」シロアリの被害を未然に防ぐ対処法については防蟻薬剤による「**薬剤の加圧注入木材の使用**」「**薬剤塗布の表面処理**」「**薬剤散布の土壌処理**」等が主流を占めているが、これらの対処法に加え、近年では地中から建物に侵入するシロアリの習性を考慮した工法である「**土壌表面シート敷設工法**」が注目されています。土壌散布剤の流失による環境問題や効力の耐用年数問題などで、今後、上記のシート敷設工法の防水・防湿シートに防蟻成分を封入混練りした「**防蟻・防水・防湿シート**」が主流を占めることとなります。

【II】オプティ EX シート敷設手順（防蟻・防湿・防水）

（1）対象建物と基礎構造

新築住宅建物でベタ基礎および布基礎（通常布基礎と変形布基礎）を対象とします。

（2）建設地の整地作業

- ①地域別の凍結深度を考慮した根入れの基礎構造にすること。
- ②整地した箇所の墨だし後、根切り、碎石やグリ石敷後、転圧を充分に行い地耐力を確保すること。
- ③地域によって整地した土壌にシロアリが生息していると確認される場合、必要に応じて周辺からの侵入予防のために、用地全面に土壌処理剤の散布

を行うこと。(【Ⅲ】推奨薬剤)

- ④土壌処理剤を散布する場合は使用方法・散布方法を確認の上、万遍無く全面に散布すること。
- ・アルトリセット希釈液：水で400倍（本剤500mL+水199.5L）
 - ・面状処理：3L/m² ・帯状処理：1L/m²（200mm巾）
- ⑤ EXシートが破れたり、裂けたりしないように注意すること、特に碎石など角の尖ったものは充分転圧して敷き込むこと。
- ⑥鉄筋を組む前に碎石やグリ石の表面にEXシートを敷設すること。
- ※下記（囲内の各場合）参照
- ⑦EXシートは両端100mm巾でシワの出ないように重ね合わせて敷き詰め、合わせ端面はEXテープで連続的に、途切れることのないように貼り付けること。
- ⑧基礎下からの配管（スリーブ管・電管等）の立ち上がり箇所はEXシートを丸十字状にカットしてから嵌め込み、カット部の短辺を巻き込むようにEXテープで隙間が出ないように被覆すること。
- ⑨EXシートの巻き込み、嵌め込みの出来ない箇所に付いては、オプティシリーズ商品のシールやUフォーム等で隙間を完全に埋めること。
- ⑩嵌め込みの困難な部位については、あらかじめ寸法カットしたEXシートを敷き込み、その上を連続したシートで覆い、重ね合わせた端面をEXテープで隙間が出ないように張り付けること

（ベタ基礎の場合）

EXシートは碎石やグリ石上の全面と外周の捨てコンクリート下まで敷き込むようにして、ベタ基礎構造を施設後、型枠にコンクリートを流し打設すること。

（布基礎の場合）

A,通常の場合

床下土壌表面にEXシートを外構の、捨てコンクリート又はフーチング基礎下まで途切れることの無いように敷設し、型枠にコンクリートを流し連続フーチング基礎を打設すること。

B,変形布基礎の場合

上記Aをしっかりと施工した後、床下全面（土間）にコンクリートを打設すること。

（束石に於けるEXシートの敷設の場合）

- ①EXシートを先に敷いてから束石を置く。
- ②束石の周辺でEXシートを切り取り敷設後、周囲のEXシートとの張り

合わせを行う。

- ③束石の上から全面に EX シートを被せて施工する。
- ④束石と EX シートとの隙間は EX テープやオプティシリーズ商品で隙間が出ないように施工すること。

(玄関ポーチ・土間コンクリートへの敷設の場合)

基礎と玄関土間コンクリート接合部の隙間からの侵入防止。

- ①玄関ポーチは、基礎工事の段階で土間のコンクリート部分まで EX シートを敷設すること。
- ②EX シートはフーチング基礎又は捨てコンクリートの下から連続するように敷設すること。
- ③敷設の範囲は土間の外構より 300mm 以上はみ出すように EX シートを敷設すること。
- ④土間コンクリート下と外構部へは、必要に応じて土壌処理を行うこと。

【Ⅲ】 推奨薬剤 (アルトリセット 200SC)

(1) アルトリセット 200SC の特徴

- ①優れた安全性・残効性・伝播性・速効性を備えています。
- ②イエシロアリに対する 10 年間の長期残効性が確認されています。
- ③土壌吸着性が高く有効成分が土壌表層部に留まるので、環境流出リスクが極めて低い薬剤です。
- ④土壌表層部に強固な処理層を形成するため、環境汚染も少なく長期に亘り効力を発揮します。
- ⑤低蒸気圧で VOC を含まない超低臭性と安全性を有しています。
- ⑥アメリカ EPA (環境保護庁) の新しい安全基準 RRP の基準をクリアした非常に安全性の高い薬剤です。

【Ⅳ】 注意事項

- ①基礎下の配管類 (スリーブ管・電管等) は先行して施工しておくこと。
- ②施工現場の気温が低い時は EX テープの粘着力が弱くなるので、予め温めておいて使用してください。
- ③降雨の恐れのある時は、施工日の変更や時間をずらすようにして下さい。
- ④土壌処理剤を使用する時は火気に注意して下さい。

⑤施工材料の保管は、高温・高湿・結露等、異常環境の恐れのある場所は避けてください。

※ 敷設施工については下図「施工現場風景」「オプティEXシート施工要領」参照のこと。

※ 施工現場風景